



『学習指導要領改訂とMM教育』

【北海道教育大学附属札幌小学校 教諭 樋渡 剛志】

小学校学習指導要領が平成29年3月に公示され、平成32年度から実施されることになりました。札幌らしい交通環境学習を推進していく上で、札幌市都市交通課と北海道開発技術センター、教育現場が連携をして取り組んできました。平成23年度から取り組みを行い、本実践が27本目の実践になります。「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、今後も更なる連携体制を築いていきます。

それでは、平成29年8月28日(月)に行われました、札幌らしい交通環境学習フォーラム2017での実践を紹介させていただきます。

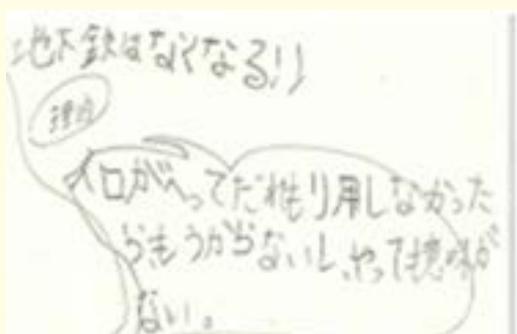
授業の導入で、「まちの広がり分かる地図」に「公共交通の路線図」を重ねて提示していきました。すると、「分かった!」という声と、「よく分からない。」という声が上がりました。何が分かって、何が分からないのかをはっきりさせる場面を作りました。子どもたちは「交通と人口が関係していそうだよ。」と発言し、何に着目しているかという見方をはっきりさせていったのです。

新学習指導要領では、このように、何に着目して考えるかという「見方・考え方」を働かせることが大切になると言えます。まさに、本実践では、子どもたちの「見方・考え方」を育む上で重要な実践の一つになるのではないかと考えられます。

その後、学級全体で交流する場面では、「買い物する時に駅がすぐあると便利。」という人口増加による交通の発展に着目する発言や「乗りものができたから、人が増えたんだよ。やっぱり便利なところに住みたいからね。」などと、交通の発展による人口の増加についても考えていきました。交通と人口が相互に関連付くことで、まちの広がりを捉えていることが分かります。



十分にまちの広がりや交通の広がりやを関連付けて考えてきた子どもたちに、2060年の人口予想のグラフを提示します。すると、「人が少ない!」「二枚目の地図の時と同じくらいの人口だよ。」などと呟き始めました。教師は、子どもたちのつぶやきを生かして「みんなはどうなっていくと思う?」と問い、ノートに自分の考えを書かせました。再度、人口と交通や人口とまちの広がりやに目を向けさせようと考えたのです。



子どもたちは、左図のように、これまでの学習を生かした見方を使って考えていることが分かります。人口の増加による、交通の発達を関連付けて考えていた子は、自分の考えを強固なものにしていきました。また、交通の発達による人口の増加を考えていた子は、自分の考えを変容させ違う見方・考え方を使って追究していきました。

このように、「交通」と「人口」に関連付けて考えられるように資料を提示したり子どもの追究材料にしたりすることで、子どもたちはより実感的に市の様子の移り変わりを捉えられるのではないかと考えました。これからも、未来を担う子どもたちの学びが深いものになるように、札幌市都市交通課と北海道開発技術センター、教育現場がより一層連携していきたいと考えます。

前時までに子どもたちは、札幌市の人口・まちの広がり、公共交通、公共施設、生活の道具の変化に着目して調べ、大まかにまとめている。



昭和 25 年 (1950)



昭和 49 年 (1974)



平成 29 年 (2017)

まちの広がり と 公共交通の広がり は、関係があるのかな？

関係がありそう！

人口・まちの広がり

昔は中心だけがまちだった。

おじいちゃんがあまり移動しなかった。

人口は 31 万人だよ。

札幌市が段々広がっていったからだよ。

小さいところが中心の外側にできている。

人口は 120 万人だよ。

中心から離れたところもまちになった。

あいの里も畑だったけど、まちになった。

人口は 196 万人だよ。

人口が増えたから、まちが真ん中より外側に広がっているよ！

まちが小さかったから、移動しなくてよかったんだよ！

行きたいところに行けるように交通が発展していることが言えそうだよ！

車がない人でもお年寄りでも、誰もがどこにでも行けるように交通ができていますよ！

だって…

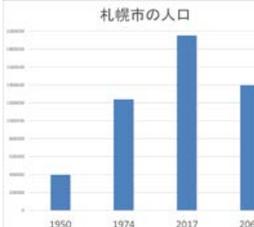
交通

市電と鉄道だけで十分だったんだよ。

オリンピックの時に地下鉄に乗って移動したって！

人が住んでいるところに交通が必ず広がっているよ！

まちが広がって、速く遠くにも移動できるように公共交通も広がっている！



これからどんなまちになってほしいかな？

札幌にも問題があったなんて思ってもいなかった。

みんなが住みやすいまちになってほしい。

交通はますます重要になってきそう。

人口が減ると、まちはどうなっていくのかな？
札幌市のこれらについて、考えていきたいなあ！

○現在の公共交通の路線図と過去の公共交通の路線図を比較することで、まちの広がり と 公共交通の広がり の関係性に目が向くようにする。

○「まちの広がり と 公共交通の広がり がびったり関係していそう」という子どもの思いに、「本当に関係しているのかな？」と投げかける。そうすることで、「関係しているよ！だってね…」と見通しをもって取り組む姿を引き出す。

○どの視点に着目して変化を捉えているのかを子どもに問い返し明らかにすることで、まちの広がりを多面的に捉え、公共交通の広がり と 関連付けて話し合う場を構成する。

○まちの広がり と 公共交通の広がりを十分に捉えてきた子どもたちに、2060 年の札幌市の人口予測を提示する。人口が、1980 年くらいにまで減る事実に着目させることで、公共交通に目が向くようにする。

○人口の減少と交通網の関係に着目させてから「これからの札幌市はどのようなになってほしいか？」と問うことで、未来の札幌市について考える姿を引き出す。

まちの広がり と 公共交通の広がり は、関係があるのかな？

まちが広がっている！



重なる。

人口
まちの広がり

中心にまちがある。
31 万人

段々広がって
120 万人

離れたところも。
196 万人

人口が増えたから、まちが真ん中より外側に！

50 万人減

みんな 52 歳
先生 77 歳

人が減るとまちは昔みたいに戻る？
140 万人

そこまで必要じゃなかった。全部が中心にある。

行きたいところに行ける。行きたいところが遠くに。

誰もがどこにでも行ける。車のない人でも、お年寄りでも。

お年寄りも増えてくるって聞いたことがあるよ。

交通
市電と鉄道で十分。

オリンピックの時に地下鉄に。

人が住んでいるところに交通が。

公共交通が重要になりそう。

まちが広がって、速く遠くにも移動できるように公共交通も広がっている。

やっぱり、まちと公共交通は関係しそう?!
人口が減ると、まちはどうなっていくのかな？

板書計画